

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail:XLZ02133@nifty.ne.jp
URL:http://www.ksvk.jp/
◇郵便局振替口座 / 福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座 / 2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◆平成29年度 みんなの研修会を終えて 2~3P

北九州市障害福祉ボランティア協会
事務局長 竹田 英樹

◆「障害あるある川柳コンテスト」入賞者発表! 4P

◆ボランティア物語 93 5P **好評連載中!!**
『アルコール依存症』宮崎 浩



◆福祉のまちづくり
ネットワークプロジェクト リレーレポート③ 5P

福岡県脊髄損傷者連合会 北九州支部
事務局 白川 長廣

◆MYフレンド 6P
パソコンサポーター 江藤 誠二

◆まごころ募金お礼 7P

◆視覚・聴覚障害のある人への
やさしいマナーアップ講座に参加して 7P
受講者 上原 藍



◆協会カレンダー 8P

座標軸

病院の待合室にいましたら、高齢のご夫婦が入って来られるのが目に入りました。近くに住んでおられるのでしょうか？手押し車を押しながらゆつくりと奥さんが、その後ろにはご主人が付き添っておられました。

その後の受付のやり取りを拝見していて、驚いたり関心したり、そして嬉しくなりました。お一人はろうあ者の方で手話でやり取りをされていました。驚いたのはそのことではなく、受付の職員、先生、看護師の温かな対応にでした。先生はにこやかに迎えられ、受付では慣れた筆談で、看護師も小さなホワイトボードを持ってこられ、いつも通りの対応なのだわかりました。かかりつけ医とはこんなものだと思われました。大病院で、このように気兼ねなしにかかることが出来るだろうかと思いました。

地域で暮らし、病気のことでも何でも気軽に応じてくれる場所があるかどうかは大きな違いです。こうした住み慣れた地域で暮らし、気兼ねなく見守り合った関係を持ちたいですね。

(K.O)

平成29年度 みんなの研修会を終えて

北九州市障害福祉ボランティア協会 事務局長 竹田 英樹

平成30年2月3日(土)

に役員、常任委員、会員、職員、合わせて15名で、一部「思い込み・無理解・偏見」がどうしたら無くなるのかを話し合い、また二部では、ボランティア協会の平成30年度の取り組みについて話し合う研修会を開催しました。

今回は、岡田理事長のあいさつの後、参加者自己紹介の代わりに、2人1組になってお互いの共通点(趣味・嗜好など)を探し紹介し合う「他己紹介」でスタートしました。

【一部 寸劇研修会】

「思い込み・無理解・偏見」

まず、ボランティア講座などで好評の寸劇研修会の内容と今年度の重点事業として取り組んでいる啓発



事業についての説明があり、この事業は「思い込み・無理解・偏見」から生じる差別を無くすため、多くの事例を集めた啓発冊子を作成し、学校や団体の人權学習で活用しているというものです。

寸劇研修会の具体的な説明の後、今年度は、外見だけではわからない「見えない障害の事例」を取りあげ

ました。話すことはでき

ても聞こえない中途失聴者・難聴者の「思い込み・無理解・偏見」に関連した事例で、まず台本の説明があり、その後配役を募集して有志の皆さんが寸劇を演じました。みなさん、即興ですばらしい演技をされ拍手喝さいでした。

寸劇の後、他の障害についての事例のいくつかを紹介されました。

また、直接的な「障害のある事例」ではありませんが、「活動あるある事例」として、同じ活動をしている男性が視覚に障害のある女性の手引きをしているところを友達に見られ、恋人だと思ひ込みをされた事例などの紹介もありました。その後、2グループに分か

れてみんな「思い込み・無理解・偏見」の事例を出し合い、思い込みや誤解をどのようにして無くしていくか話し合いました。

【Aグループの意見】

・駐車場の問題で、障害のある人を乗せた車が、専用

駐車スペースに停めようとしていたら、突然車が割り込んできて駐車したので、「ここは障害者用駐車場ですよ」と言うと、「私も障害者よ」といって立ち去って行った。障害がないように見えたが、外見ではわからないので内部障害のある人のことも考えないといけない。

・障害者等用駐車スペースがなぜ広くとっているのか、車いす使用者が、実際に車から車いすを降ろす場面を見てみないと理由がわからないと思う。理由についての啓発も必要。

・バスの問題で知的障害のある人が障害者手帳(療育

手帳)を見せたら障害のない人と誤解されるトラブルがあった。肢体不自由の人や視覚に障害のある人は外見でわかるが、知的障害の人は外見では障害がわからない。運転手が療育手帳の事をわかっていなかったようだ。

【Bグループの意見】

Bグループでは、主に2つの意見が出た。一つ目は、視覚に障害のある人のシンボル(白杖)について、二つ目は障害児教育の親のしつけについて意見交換があった。

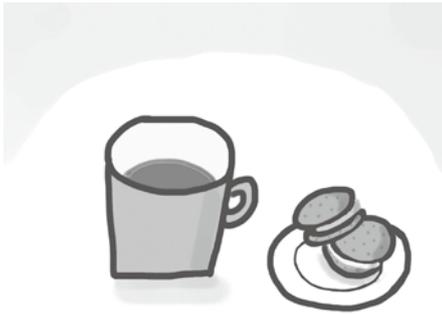
・弱視の人で短い白杖を使っている人がすれ違った人に呼び止められ、

「視覚に障害がある人は、白杖を路面につけて、動かしながらゆっくりと歩かずやる。そんなに早く歩けるならほんとうは見えてるんじゃないの?」と言われた。

・車いす使用者は、車いすというシンボルがあるので、支援を受けやすい。

・視覚に障害のある人が困った時に白杖を上上げる人が少ない。黄色いハンカチ運動やヘルプカードも普及されていない。支援が必要なシンボルがあることをもつと啓発しなければ。

・子どもの発達障害のことが理解されてなく、子どもが騒ぐと親のしつけが悪いと言われる。
各グループの発表終了後、休憩のコーヒータイムに入りました。



【30年度の取り組み】

楽しいコーヒータイムが終わり二部の30年度の取り

組みについて話し合うことになりました。

話し合いを始める前に今年度取り組んだ事業について報告がありました。29年度は、昨年の「みんなの研修会」で出された意見を具体化して「障害あるある川柳コンテスト」と「思い込み・無理解・偏見」の啓発冊子作成について取り組んでいるという報告と、川柳コンテストについては、1月審査会で入賞作品が決まったことの報告がありました。(関連記事4ページ参照)

【Aグループの意見】

・今年度に取り組んだ「障害あるある川柳コンテスト」が良かったので、継続の取り

組みを検討したらどうか。

・災害時にボランティアグループがどのように連携するか、一度話し合いをするのはどうか。
・障害者差別解消法の合理的配慮について知らない人が多くいる。合理的配慮の寸劇で出前公演みたいなものに取り組んでみては？

【Bグループの意見】

・わっしょい百万夏まつり会場で、外見ではわからない障害啓発を含めたスタンプリーの検討。

・啓発寸劇が良かったので、プロの劇団とのコラボ。

最後に、古賀副理事長が災害時や合理的配慮の啓発問題などを今回出た寸劇、ゲーム等も含め、組み合わせたり取り組みを検討したら良いのではないかと発言し、二部のまとめとしました。
さらに、今回の研修会で出た意見を、平成30年度の事業計画に反映していきたいと思えます。今後、これらの提案を常任委員会ですべて理し、事業計画案としてまとめ、理事会を経て総会に提案されることになりました。との説明がありました。

「みんなの研修会に参加して」
常任委員 土谷 瑞彦

ボラ協の総会でも近頃すつかりおなじみの寸劇が、つ

いにみんなの研修会にも登場した。

差別解消条例という、いま一番HOTな話題に合わせ、事例を通じて差別を考えるにも「実際にやってみる」寸劇は実にいい。みんな名優ばかりだし。演じる側も観る側も、テキストを読むだけでなく問題もさらに具体的に身近に感じることが出来る。今春には、今回の寸劇の台本も載る冊子(タイトル未定)が作成される予定だ。多くの人に活用してほしいと思う。

残念だったのは、参加者が、ちょっと少なかったこと。例年、この研修会でチラッと出た話が次年度の事業計画にのっかっていくのもボラ協のいいところなので、ちょっともったいない。まあでも、インフルエンザが大流行で、中止になる研修も多いと聞くので開催できて本当に良かった。皆様、御自愛ください。

障害あるある川柳コンテスト入賞者 発表!!

「障害あるある川柳コンテスト」にご参加くださったすべての皆様
誠にありがとうございました。

平成29年度「障害あるある川柳コンテスト」では応募総数121点で、どの作品も想いが込められているものばかりでした。

審査については、審査基準①タイトルに合った「障害あるある」そんなことがあるんだ。②障害特性から見えるほほえましい「障害あるある」③少し笑いが出るような「障害あるある」の3点で審査いたしました。

第一次審査会で入賞作品候補20点に絞り、第二次審査会で厳正な審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞2名の計3名の入賞者を選定いたしました。

今回惜しくも入賞されなかった皆様には参加賞を送らせていただきます。

入賞作品は下記の3作品です。

最優秀賞

★**丁寧**に 挨拶交わせば わが夫

私は視覚に障害があるので近所づきあいなどを考えて出会った人達には極力挨拶を交わすようにしています。ゴミ出しに行った際、3階から降りてきた方に丁寧朝の挨拶をしたら「どうしたん、今日は丁寧やね」…私は近所の方と思い込んでわが夫に話しかけていました。

優秀賞

★**ラッシュアワー** 顔の前が 尻だらけ

車いす使用者は、ラッシュアワーの時、電車の中で前に立っている人のお尻に顔が近づきます。顔がつぶされそう。でも回りの状況は知りたいし…。横を向いてもバツグとお尻が…助けて…

優秀賞

★**自閉症児の独語も 母には癒しのBGM**

常に「ダダダ」と意味不明の言葉をしゃべり続ける息子。障害の特性から出るものと思うのですが、知らない怖い人だと思われたり、雑音のように言われることもありました。母にとっては、その声が聞こえないと体調が悪いのかしら、何かあったのかしら、と心配になります。息子が静かであるより「ダダダ」は語りかけているようで嬉しい響きです。それが聞こえないと淋しい母です。

岡田理事長の講評

笑いあり涙ありの応募作品ばかりで、作品ごとにみなさんの普段の暮らしが見えてくるようでした。選考には苦慮しましたが皆さんを代表して3点を選ばせていただきました。これからもウイットに富み勇気づけられる作品を待ち望んでいます。

広告



SKC 会計グループ 税理士法人 SKC

税務代理業務 ・ 税務相談業務

グループ会社

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL. 093-482-5588 / FAX. 093-482-5566
<http://www.skc-tax.or.jp/>

株式会社さかい経営センター 株式会社SKC計算センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州

宮崎浩さんは、当ボランティア協会の理事です。このコラムは、宮崎さんの体験を通した思いをつづったものです。

ボランティア物語

-93-

アルコール依存症

宮崎 浩

よほど酒飲みだと思われているのか。よくお酒をいただく。確かに、ビール・日本酒・焼酎と、どれも大好きで、恥ずかしくも礼を言う前から手が出てしまう。

夕飯の献立も「今日は何が飲みたいか」によって決まる。洋食にはビール。和食には日本酒と言った具合。もっぱら家飲み派だけど、夕方6時までと、夜9時以降は絶対飲まない。

量もビール一本か、お酒一合。でも、頑張った日は「もう一杯だけいいよ」と自分で晩酌ルールを決めている。

それに、週二日程は、ボランティアで帰宅が遅くなるから、この時は飲めない。

こんな健全な飲酒生活であるから「自分はアルコール依存症なんかじゃない」と思い込んでいた。だけど、精神病

理上の基準だと、軽いアルコール依存症にあると知った。家にお酒がないと落ち着かない。嵐の日でも買いに行くと。仕事中でも何を飲もうかと考える。肝臓の数値がずつと基準を越ええたまま。痛風なのにビール好き。人間の脳は、一度快楽を覚えると、嗜癖となつて、どこまでも求めてくる。飲酒の欲求は、自分の意志だけでは抑え込めない。それは、お酒は薬物だということ。アルコール依存症は病気だということ。うつ病の人は、怠け者と思なされて、叱咤激励を受けてしまいがちだ。この病気への無理解が、うつ症状をさらに悪化させてしまう。これは、あらゆる依存症の人にも当てはまるはず。酒に溺れずに過ごせているのも、仕事があつて、ボランティアがあつて、厳しい女房の目があるからだろう。さて、今晩は、女房と一緒に美味しく飲もうか。

福祉のまちづくり ネットワークプロジェクト (リレーレポート③)

日常的な点検活動の大切さ

福岡県脊髄損傷者連合会北九州支部

事務局 白川 長廣

私の住む街はいま鉄道高架事業・土地区画整理事業で大きく変わろうとしている。事業開始に当たり地元では協議会を設置し、「にぎわい創造部会」「街デザイン部会」「歴史的建造物部会」「生活安全部会」の4つの部会を設けて協議し「まちづくりビジョン」を提案した。メインテーマは「人が主役、やさしさいっぱい」のまちを目指して、であり、誰もが住みやすいユニバーサルデザインのまちづくりであった。

工事期間についても移動しやすいまちづくりの心がけるということであった。しかし、その後のまちづくりビジョンの実現に向け、検討会が設置されたが、「商業にぎわい検討会」「駅舎保全活用

事業化検討会」の2つの検討会でバリアフリーに関する検討会は設置されなかった。バリアフリーは法律で規定されており「黙っていてもバリアフリーになる」というものだった。そんな工事エリアで、「？」というところに再三ぶつかっている。「福祉のまちづくり条例」の対象施設であるのに障害者用トイレがない、「移動円滑化法」が適用されるのに駅待合室に車いすスペースがない、道路縁端の段差が規定を超えている。点字ブロックが勝手な解釈で規定通りに敷設されていない等々、枚挙にいとまがない。その都度、指摘し改善を求めているが「黙っていてもバリアフリーにはならない」ということを実感している。

ひるがえつて市内を歩いてもこれは？という個所に時々出会う。皆さんもこれは危ない、こうしたら良い、という気づいた事を、「まちネット」の事務局「障害福祉ボランティア協会」まで伝えてほしい。

広告

加藤法律会計事務所

弁護士 加藤 哲夫
弁護士 加藤 哲夫
公認会計士

〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町二丁目1番1号 小倉鍛冶町ビル8階
電話 (093) 533-5877 FAX (093) 533-5977



— パソコンサポーター歴は

何年ですか—

昨年二月の養成講座受講後からのスタートなのでもうすぐ一年です。

— きっかけは—

二年前に定年で退職し何をしようかと考えていたところ、平成二十八年初夏に点訳養成講座を見つけて受講しました。終了後「点訳サークルわかば」に入会し点訳の活動を始めて、ボランティアに少し関心が出て、仕事でパソコンを使っていたこともあり養成講座を受講した次第です。

— 障害者との関わりは—

身近に存在がなくなかったことも知識も全くありませんでした。「わかば」で活動を始めて、初めて視覚障害者と接しましたが、頭で

想像する「見えないこと」と実際は全く違うということに、最初はショックの連続でした。

— 違いというのは—

私たちは文章を読むとき目で区切りを判断しますが、点訳は「かな」の羅列でただ点字を入力するだけでは意味がわからないので、点字のルールに沿って適切なところで区切らないといけません。写真や表も文章で表現するのでとても難しいです。毎週土曜日に行われる「わかば」の例会でわからないところをいちいち確認して勉強しています。私たちが得ている目からの情報をどう伝えるか工夫が必ずです。パソコンでは視覚障害者以外の障害者の方と初めて接しましたが初めてだ



江藤 誠二さん

「まもなくパソコン2年生」

つたのでびつくり。養成講座中毎回めぐっていました。

— 現在の活動は—

毎週水曜日十時から十七時まで東部障害者福祉会館で活動しています。来た人にマンツーマンで対応しています。使いこなしているけど部分的にわからないこと、ネットにつなぐ、年賀状作成等内容は個々様々です。自宅を訪問し対応することもあります。これからも長く続けようと思っ

— 活動の中

で感じたことは— 活動後視覚障害者の人を戸畑駅のバス停に送って行ったことがあります。お互い目指す目的地は一緒だったのですが、道順というか目印が異なり戸惑ったことがありました。視覚障害者

の人が目印にしていたエスカレーターは、私も近くを何度も通ったことがあるのにそこにあることに気づいていませんでした。点訳の活動を始めるまでは白杖を使っている人が見えなかったのですが、今は見かけるようになりました。知らないから見えてないことがあると思いました。

— 趣味は—

退職したらやりたいと思っていたことはたくさんあったのですが実際にはなかなか手をつけていません。ウォーキングは毎日一時間しています。山登りも好きで福智山や皿倉山に登ることもあります。七十歳になつたら富士登山を目指したいです。去年木屋瀬から福岡城まで唐津街道を四〜五回に分けて、歴史好きな友達の話聞きながら歩きました。

聞き手 森山 幸恵

【広告】

車いすが使える住まい

住まいの建築から福祉機器までトータルに
高齢者・障がい者(児)の方々のための住まいの設計・施工
(ホームページに事例を掲載しております。)

株式会社 神崎工務店

TEL (093) 921 - 5562

福祉住宅専門店

新築・リフォームから小さな工事まで

お気軽にご相談下さい



「ゆく年 くる年 まごころ募金」

ありがとうございました

伊高 幸江	今村 修	今村 浩司	岩橋由美子
岩淵 恵子	宇都宮慎吾	江藤みどり	大友 征子
岡 徳博	岡崎美智子	尾形八重子	鹿子嶋初美
蔵内 綾子	栗山 敦治	栗山 高子	香田 小茅
小林 芳子	古賀由美子	志賀 幸則	柴田 泰博
関塚 美加	宗 ひろ美	辻村 文字	富岡 克子
中島 英恵	中原 祐子	永井 久子	西村 邦子
羽地 良一	三村 保子	宮崎 育恵	増田 恭一
安森キミ子	吉武 寿洋	吉本 茂行	

他匿名13名(敬称略)

ご寄付総額
268,000円
(2月1日現在)

年末から実施の「ゆく年 くる年 まごころ募金」にたくさんのご寄付をいただきました。会員をはじめ多くの皆様がボランティア協会を支えてくださっていることに心より感謝申し上げます。

皆様のお気持ちを大切に、障害のある人もない人も、ともに誰かが暮らしていける社会をめざして地域の中で役割を果たしていくために使わせていただきます。

「視覚・聴覚障害のある人へのやさしいマナーアップ講座」に参加して

受講者 上原 藍

今まで白杖を持った方や盲導犬ユーザーの方々とのみだけすれ違ってきたことでしょうか。

私は声をかけることでもできず、ただ見守るだけでした。どうやって声をかけたら良いのか、果たして自分のできることなどあるのだろうかかと葛藤がありました。

今回の講座を受け、声かけのポイントや誘導方法やお手伝いの内容を聞く等の一連の流れを学ぶことがで



きました。

また、実際にペアを組み視覚障害の方の誘導方法を実践で行った際には、耳から入っ



てくる情報というのがすごく大切で、支援する側は細かく、なおかつ丁寧に伝えてあげなければいけないなど実感し、大変勉強になりました。

聴覚障害については多様な世界を学ぶことができました。簡単な手話を勉強し、顔の表情がとても大切であると教えていただきました。今後は、「お手伝いしましょうか?」と積極的に声をかけをしていきたいと思えます。

広告

「食べて、読んで、くつろぐ」

新しいスタイルのインターネットコミックカフェ



コミックバスター小倉京町店
北九州市小倉北区京町1丁目5-22 2階
TEL *093-512-9863
URL *http://www.comicbuster.jp/
年中無休 / 24時間営業



ボランティア登録者について

ボランティア活動情報やイベント・研修等の情報提供を電子メールで受信していただいているボランティア登録者の皆さまへ、
【ボランティア活動保険】の更新(H30.3.31で満期)と、次年度の継続更新をお願いします。



この機会に登録者から正会員に変更していただく方も大歓迎ですが、新たな登録者も同時に募集します。



登録希望の方、
 お問い合わせは事務局
 XLZ02133@nifty.ne.jp まで
 ボラ協の最新情報は、
 ホームページやフェイスブックに随時
 更新しているので、ご覧ください!

ご協力・ご提供ありがとうございました。(敬称略)

○ご寄付(公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります)

山下 恵子

○使用済み切手・テレカ・ハガキなど

鶴池 皓代 公文真理亜 古賀麻里子 下田 猛

高橋 朱美 森脇 厚子

生き方のデザイン研究所 スピナマート高見店化粧品部

八幡西区役所保健課 八幡西区社会福祉協議会

小倉南区役所保健福祉課・障害者相談係

(株)ジェイコム九州 北九州局

協会カレンダー

15日(日)	4月	29日(木)	28日(水)	27日(火)	14日(水)	4日(日)	3日(土)	2日(金)	1日(木)	3月	22日(木)	15日(木)	10日(土)	3日(土)	1日(木)	2月
会報216号発行		北九州市福祉のまちづくりネットワーク定例会 障害福祉団体連絡協議会常任委員会	障害福祉団体連絡協議会	定例理事会	常任委員会	(東部障害者福祉会館「ゆう・あい」共催事業)	視覚に障害のある人の外出支援ボランティア体験講座	第15回障害者パソコンサポーター養成講座閉講	「ひこうせん未来」第81号発行		障害福祉団体連絡協議会常任委員会 会報215号発行	障害者の余暇活動支援シンポジウム	北九州市制55周年記念式典(岡田)	みんなの研修会	第15回障害者パソコンサポーター養成講座開講(全10回)	

平成29年度

視覚に障害のある人の 外出支援ボランティア体験講座

様々な理由で外出をあきらめてしまう視覚に障害のある人をサポートするボランティアを、まずは体験してみませんか?

日時：平成30年3月4日(日)
10:00~15:00

場所：ウエルとばた7階連絡事務室
(戸畑区汐井町1-6)

対象：高校生以上

申込：2/5月~

電話・FAX・メールにて

費用：500円(資料・弁当代)

定員：20名(先着順)

内容：

- 視覚障害ガイド基礎知識(講義)
- 当事者からのお話
- 昼食交流(お弁当の情報提供体験)
- ガイド体験(歩行体験)
- ボランティア活動のルールとマナーなど

お申込み・お問合せは

(公社)北九州市障害福祉ボランティア協会

戸畑区汐井町1-6ウエルとばた6階

TEL 093-882-6770

FAX 093-882-6771

Mail XLZ02133@nifty.ne.jp